

# 共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



登山 万佐子

「未熟児網膜症」をこ存じですか？ 予定日より早く生まれた赤ちゃんの代表的な病気です。在胎週数36週ごろに完成する網膜の血管が未完全なために起こります。早産ではかなりの割合で発症するといわれているため、生後数週間で眼底検査が始まります。

から(網膜にレーザー光線を当てて焼く)レーザー光凝固の治療を行います」と、医師から早口で説明されました。体重がやっと700gになった小さな体にいったい何をするのか想像もつきませ

した。子どもの失明原因の上位を占め、医師の説明には常に「失明」の言葉があります。病院の提案は、娘が生まれる1カ月前に眼科の学会で発表されたばかりの手術を受けるとして、しかし、体が小さ過ぎるため、異常がない



左目の手術を受けた翌日の綾美ちゃん

## 生後118日失明の恐れ

生後55日目。在胎週数23週で生まれた長女綾美(8)も検査が始まりました。発症率が高くて、自然に治癒する傾向が高いと本に書かれていたので、当たり前の検査の一つだと思っていました。ところが、週1回のはずの検査が何度も追加されます。

ある日、病院に行くと「今

治る子も多いようなのですが、娘は症状が進行。両目にそれぞれ4回治療し、とうとうレーザーを当てる場所がなくなっていました。それでも、症状が治まる気配はありません。

娘は重度の未熟児網膜症で

水晶体まで取り除かなければならず、全身麻酔も危険だといのです。手術が成功しても、弱視になるのはほぼ間違いない、視神経に損傷があれば見えないという説明が続きました。

夫も私も手術に踏み切れず

にいました。でも、一気に網膜剥離まで進めば失明…。一刻を争うところまで来てしまいました。決心するまで涙は止まらず、眠れない夜が続きました。

そして、生後118日目に右目、翌週には左目の手術を全身麻酔で受けました。手術日がちょうど出産予定日でした。長男も幼稚園を休んで病

院で応援しました。手術室に向かう直前、ガラスのドア越しに初めて見た保育器の中の妹は、思っていたよりも小さかったそうです。兄の声援が聞こえたのか、娘が体を動かしたのには私だけではありませんでした。

娘は、千々ほどの体で手術に耐えてくれました。無事に人工呼吸器を外して病室に戻ってきた姿を見た瞬間、全身の力が抜けていきました。

新生児集中治療室(NICU)には、目だけでなく腸や心臓、脳などの困難な手術と治療を、小さな体で乗り越えてきた仲間とその家族がたくさんいました。押しつぶされそうになりながらも、小さな命は懸命に生きようと頑張っているのです。

(「N」子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)